

社会実験Exograph

遠野宏季

概要

プライバシーの売買に関する人々の価値観と社会的許容度を知るため、1ヶ月間の自室における私生活動画を月額20万円で買い取る社会実験を行った。開始当初は貧困ビジネスなどの批判もあったが、実際は大半が20代~30代前半の有職者で金銭目的以外の動機を含めて応募してきたことが分かった。本レポートではその実験の応募者属性、被験者の心理的变化及び私生活行動データの売買に関する倫理的な側面について考察した。

キーワード

データ経済、労働市場、資本主義、社会福祉、ベーシックインカム、倫理

はじめに

昨今EUにおけるGDPRを始めとして、データの所有や集め方の在り方が問われ、規制はますます厳しくなっている。

例えば2016年のアメリカ大統領選挙のロシア関与を始めとして、データを活用したサービスは人々の行動・考え方に大きく影響を与えることができるため、悪意を持った利用は社会に大きな損失を産むからである。

一方で正しいデータの活用は、経済的利益だけでなく医療や人々のQOLを上げる事に繋がり、社会に役立つ善である。

このような状況で、私たちはデータの利活用について個人・社会の保護と公共の便益の均衡を早急に考える必要に迫られている。

また人類においてデータは石油と同じほど重要な資源と言われている。実際、我々が無料で使えるサービスのビジネスモデルの裏では、サービス利用によって生じているデータをマネタイズしているものも存在しており、データには貨幣性がある。将来的にAI・ロボットが発達し、全員が働かなくてもよい時代が来ると言われているが、その時に働かない人間が人間にしかできない社会貢献の一つとして既存の労働以外に「生き様のデータ」(DoE, Data of Existence)の提供によって社会貢献を行い、対価を受けるという選択肢があってもよいと思われる。

このような背景から、我々は人々のプライバシーデータに関する感覚の違いを明らかにし、これまで取得されてこなかった私生活データの価値や、データ生産労働という新しい社会貢献の仕方を探る必要性を感じた。

そこで今回、生活する上で最低限困らない金額を支給する代わりにその人の私生活データを全て収集し、その活用の仕方を模索する社会実験を実施した。

目的

1. 我々の仮説として、GAFaを始めとしたプラットフォームへの批判の一つとして、無料のサービスを深く考えずに利用していた利用者が、自分のデータが知らない場所で売買されていたという「裏切られた感覚」や「騙された感覚」が大きく寄与していると考えている。
そこで本実験では、「データを売る、その代わりに金銭的対価を与える」と公明正大に宣言した状態で、倫理的・社会的にそのような仕組み・価値観が受容されるのかを明らかにしたい。
2. 現在、位置情報を常時シェアし続けるZenlyが国内外の10代に流行っているように、プライバシーに関する認識は世代間で大きく変わってきている。
我々の仮説として、若い世代にとって「Googleに検索結果を知られることと、Facebookに自分の近況と趣味嗜好を知られる事」と「自分の自室の過ごし方・私生活の動画データを収集・活用されること」との心理的な差は小さいと考えている。そこで本実験ではその仮説を検証するために、浴室を除く全ての部屋に設置したカメラで私生活を録画しマーケティングに活用するという条件下でも参加希望者がいるのかどうか、そして参加希望者はどのような属性・志望動機・金銭的対価であれば実行してくれるのかを明らかにしたい。
3. これまでスマートホームやIoTなどで取得されてきたデータは、多くの場合に温度・振動・光・頻度などといった一面的な情報がほとんどであった。また消費者動向調査でも、特殊な準備をされた環境下でのモニタリングや、アンケートや対面でのヒアリングといったバイアスの掛かりやすい状況で取得されたデータがほとんどであった。
我々の仮説として、上記のような取得データと比較し、各人の自室での行動・振る舞い・仕草・製品の利用状況といった生の情報が、新商品の開発やマーケティング・健康情報のデータ活用として大いに役立つものと考えている。そこで、本実験では、被験者の身体・顔を画像処理によりマスク処理を行い匿名化しつつ行動や表情は読み取れる消費者行動調査のデータとすることによる経済的価値を明らかにしたい。

方法

1. 社会実験の要件

本社会実験Exographは株式会社Plasmaが主催し、応募者の中から選ばれた被験者の家の浴室以外の全ての部屋にカメラを設置し、1ヶ月の私生活の動画を収集してもらう。それを1ヶ月の撮影期間終了後に20万円で株式会社Plasmaが買い取る。買い取った動画は匿名化処理および身体・顔にマスク処理をした上で消費者行動データとして企業に提供した時の経済的価値の推定・調査のためのヒアリングなどに利用する。

実験に関する注意事項やよくある質問などはオンライン場で閲覧可能な状態にし

(補足資料1)、応募は就寝時間も含めて一日8時間を自室で過ごす生活を行なっている人であれば、どのような人でも可能とした。

2. 参加者の募集及び被験者の選定

プロジェクトホームページは2019/10/27に開設し、2019/11/1から2019/11/15までの間で参加者をホームページ上の応募フォームから募った。その際に応募者の性別・年齢・年収・職業・応募動機など14項目の被験者の属性情報(補足資料2)に関するアンケートを実施した。応募期間締切後、応募者集団で特に比率の多かった24歳及び29歳の男女1名ずつ計4名を被験者として採用するために、該当年齢での日本の年収分布に近い方から順にウェブ面接を実施し、順次被験者としての採用を行った。

採用した者には「画像データ提供に関する同意書」(補足資料3)を元にデータ買取に関する説明および同意をとった。

また1ヶ月の私生活動画の買取金額について、当初東京都内の30歳前後に支払われる月々の生活保護費132,930円として設定していたが、誤解を招くとの指摘があり2019/11/11に購入金額を200,000円に増額した。

3. 被験者の自室の撮影及びアンケート調査

被験者の自室の撮影にはラップトップパソコン「Mac Book Air」、ウェブカメラ「Logicool WebCam」、USBポート「atolla」、USB延長ケーブル及び外付けHDD「1TB I-O DATA」を用いた。4名の被験者の自室は1Rであり、メインの部屋に対角線状に2台、キッチンに1台、トイレに1台の計4台のウェブカメラを各エリアの天井から全体を見渡せる位置に両面テープと養生テープで固定した。そして計4台のウェブカメラの撮影動画をラップトップパソコンに接続された外付けHDDに30分ごとに定期的に保存する形で1ヶ月の撮影期間の私生活動画を外付けHDDに保存した。そして実験期間終了後にその外付けHDDを回収した。1ヶ月の撮影期間中、撮影開始日から1週間ずつ計5回のアンケート(補足資料4)を被験者に実施し、撮影されている心情やカメラに対する感覚などについて調査を行なった。

4. 経済的価値の算定について

経済的価値の算出については、市場調査や商品開発に関わる領域の専門家へのヒアリングなどを通して推定を行う。

5. 倫理面の妥当性について

倫理面の妥当性については、法律・倫理面に関わる領域の専門家へのヒアリングなどを通して検討を行う。

結果

1. 応募者の属性

最終的に1311名（男：1045名、女：266名）の応募があった。年齢分布を見ると以下のようにっており、24歳と29歳に山がありつつ、16-35歳までのいわゆるミレニウム世代と呼ばれる人からの応募が全体の80%を占めていた。また全体の75%は有職者であり、学生が18%、無職は7%であった。

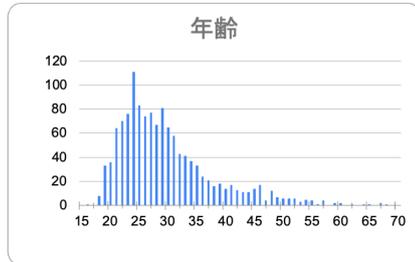


図 1 応募者の年齢分布

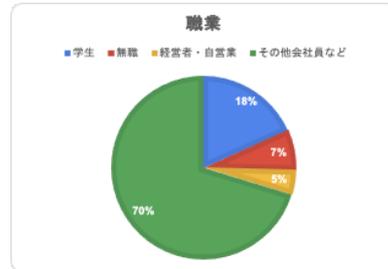


図 1 応募者の職業

年収分布について、学生を除いた結果は以下のようになっている。日本全体の年収分布と比べた時に、200~400万円代が多いが、これは参加者の年齢層が20代に偏っていることが原因としてあげられる。

また最低いくらであればこの実験に参加するか、という問いについての結果がこちらである。11/11に実験参加費の報酬を13万円から20万円に変更したため、11/11以降は選択肢に20万円を追加している。

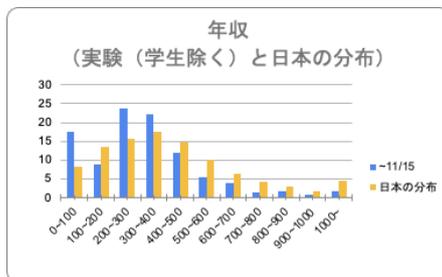


図 3 応募者の年収

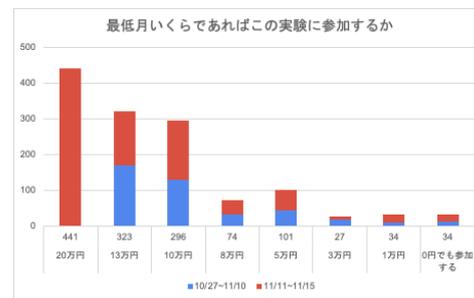


図 2 最低月いくらであれば実験に参加するか

応募動機については定性的な部分を見たかったため自由記述形式としている。この項目についてはおおよその傾向を知るために、コメントをベクトル化し、次元圧縮した後にクラスタリングを行い、人間が恣意的に各クラスタの統合と名付けを行なった。

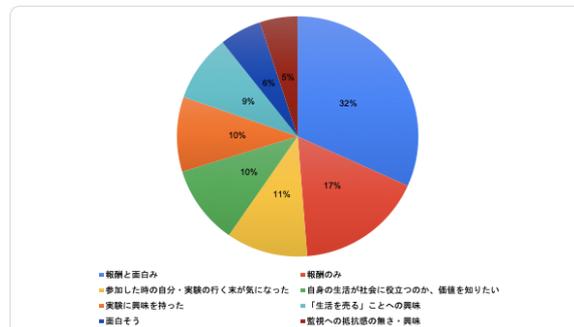


図 3 応募動機

応募動機について金銭的報酬に言及していた人は全体の半数ほどだったが、「金銭のみ」を記載した人はおよそ2割ほどであり、多くの人は単なる金銭的報酬以外の魅力から実験に参加してくれたことが分かる。

「参加した時の自分・実験の行く末が気になる」という応募動機については、日常を録画されている状況下での自分が普段通り振る舞えるのか、どのように態度が変容するのかという実験環境に対する興味を持っている人が多かった。また一方で、自分への影響という以外に、この実験自体がこれからの社会の在り方や未来の人々の生き方に何かしら示唆を与え、新しい社会を作っていくものになるのかもしれないという期待を込めたコメントが見られた。

「自身の生活が社会の役に立つのか、価値を知りたい」という応募動機については、「何気なく暮らしている自分の日常が、誰かの役に立つのなら嬉しい」という趣旨の同期で応募されている方が目立った。また性的マイノリティや精神疾患や身体障害を抱えている方から「自身の生活を知ってもらい、同じ境遇の人の役に立てて欲しい」という旨のコメントも散見された。

「監視への抵抗感のなさ」については、「自分のプライベートを他人に見られることに抵抗がない」というコメントが多かった。

2. 被験者の心境の変化

今回の実験では4名の被験者（被験者A：24歳女性、被験者B：24歳男性、被験者C：29歳男性、被験者D：29歳女性、とする）のうち全員が実験を無事終了し、実験終了後2週間経った現在において、この社会実験が原因と見られる心身の不調などは生じていない。ただし被験者Dについては、実験終了1週間ほど前に心理的負担を感じ30分ほど撮影を中断した。

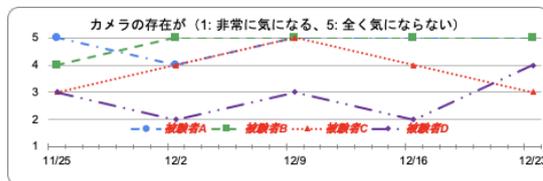


図6 カメラの存在が気になるか

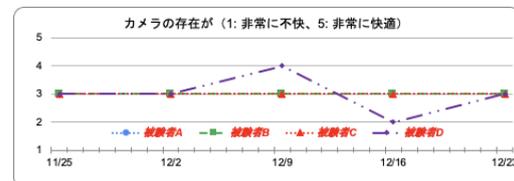


図4 カメラの存在が不快か

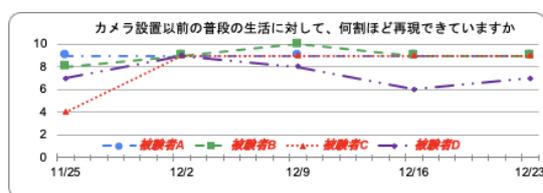


図8 普段の生活の再現度

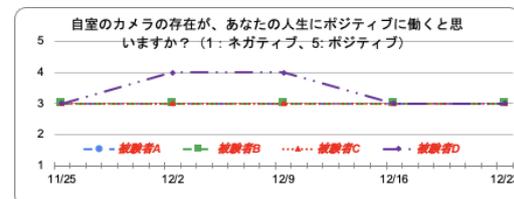


図9 カメラの存在は人生にポジティブに働くか

図6を見ると、被験者A, Bは共に実験の経過に従いカメラの存在が気にならなくなっているが、被験者Cは実験後半から気になり始め、被験者Dは実験期間中比較的気になっていた事が分かる。

また図8を見ても、被験者Dが4名の中で最も普段の生活の再現度が低い。

一方でカメラの存在が他の3名に比べて気になっている被験者Dについて図7と図9

を見ると、カメラの存在を快く感じ人生にポジティブに働くと全被験者の中で唯一回答している。

理由としては表1、表2を見ると、「道徳的に「よき人間であろうと思うので。」
「乱れた生活を整えようという気持ち」というように撮影されることにより自律の意識が生まれているようである。

このことから、カメラの存在が気になる事が必ずしも被験者にとって否定的で不快な状況とならないことが分かった。

しかし表3を見ると、上記のような撮影されることによる自律の意識が心理的負担となり、寝付けなくなったり、自己嫌悪を感じてしまう事が分かった。

表1 カメラの存在がポジティブに働くと思うか、その理由

上記質問（自室のカメラの存在が、あなたの人生にポジティブに働くと思いますか？）について、それは何故ですか？					
被験者	11/25	12/2	12/9	12/16	12/23
A	良くも悪くも慣れてしまえば何の影響も受けないから。		良くも悪くもカメラが気にならないので、影響は特になさそうです。	カメラがあってもなくても、普段通りの生活は変わらないからです。	カメラの前で普段通りの行動をしないことに、特別メリットもないからです。
B	自宅でのだらしないさが少し改善する		ほとんど気にならなくなり、普段通りであるから。	生活に干渉してないから	生活に干渉してないから。
C	現時点だとまだ判断できない。		メリットもデメリットもあるので。	防犯対策や孤独死対策などの効果がある一方で、流出リスクもあるのかな、という印象です。	現時点では、あってもなくても変化がありません。
D	行動分析をして、学習や習慣づけなどにFBできるなど使い次第では有効かな、とは思っています		道徳的に「よき人間であろう」と思っています。	実験月やシーズンなどによるのではないかと思います。	カメラのサイズ的に気にならないほうがいいかと思いましたが、ないならいいので逆に振り切れてしまう気もして、目的によるのかな、と思いました。

表2 ポジティブな心境の変化

本実験を開始して、ポジティブな面で気付いたことや心境の変化などはありますか？					
被験者	11/25	12/2	12/9	12/16	12/23
A	試験前に想像していたよりも、はるかにカメラが気にならないこと。良い意味で若干家での仕事に張り合いが出たこと。	特に良い影響もないくらいカメラが気になりません。	特にありません。	特にありません。	カメラの存在があることで、これまであまり深く考えてこなかった情報やプライバシーとその法律や倫理観について興味を持ちました。
B	自宅でのだらしないさが少し改善された。	カメラがある状況に慣れてきたため、変化を感じられなくなってきた。	普段通りに過ごしているので変化なし	第三者からの目をより一層気にしなくなった	特になくなりました。
C	意外と独り言が多いな、と気がついたこと。良くも悪くも。	部屋をなるべく綺麗に保とうとするようになった	動画などをみて、笑ってストレス解消しているという印象	特になし	当初の想定通り、あまりカメラの存在は気にならなかった
D	独り言（弁解するような）が多くなった気がします	カメラの存在を意識してはいるんですが「よい人間であろう（できるだけ）」というポジティブに働いている感じがします	乱れた生活を整えようという気持ち	いい意味での聞き直り	なにかしらカメラを意識しながら生活をしていることの自覚と受容

表3 ネガティブな心境の変化

本実験を開始して、ネガティブな面で気付いたことや心境の変化などはありますか？					
被験者	11/25	12/2	12/9	12/16	12/23
A	排泄時や郵便物などを部屋の中に放置しておくことに一瞬ためらいを感じました。ただし、1日もたたないうちにすぐに慣れてきました。	特に悪い影響もありません。	特にありません。	強いて言うなら「カメラがしっかりと設置されているか」「ちゃんと録画できているか」、生活の中でときどきふと気にしなければならぬくらいです。	特にありません。もしこの実験に参加したことで何らかのリスクを被ったら？と考えたこともありますが、起きるかどうかわからない危険を心配するよりも、新たな試みに参加できる好奇心の方が勝ります。
B	現段階では特になし	カメラがある状況に慣れてきたため、変化を感じられなくなってきた。	人を呼ぶことは躊躇われる	特になし	特になくなりました。
C	自宅に友人などを呼びづらくなったこと。	自宅に人を呼べないのが不便	動画などをみて、独り言を思ったように言っているという印象	ハードディスク廃棄業者による販売問題がニュースになり、流出リスクへの対策が気になり始めた。	情報漏洩のリスクについて少し考えるようになった(ある意味ポジティブなことかも)
D	初日はちょっと緊張して眠れませんでした	いい意味で聞き直りというか、「あーこんな自覚落れちやうてるけど...まあいっか」みたいな感じはあります。	カメラの存在が気になってなかなか寝付けなかったことがあった	自覚落れな面を記録してしまっていることへの自己嫌悪、分かっているけど止められなかったり、聞き直ってしまったことで無気力になってしまいました	カメラを意識しながらの生活態度への疑念

3. メディア・世論の変化

主要メディアへの掲載とその反響に関して、以下の表にまとめた。

表 4 主要メディアの反応

日付	イベント	媒体	タイトル	
2019/10/27	告知・被験者募集開始			
2019/11/08	募集期間	PRTimes	生活保護費と同額支給の代わりに、プライベート情報を全て収集・マネタイズする社会実験Exographがスタート	
2019/11/11		PRTimes	社会実験Exograph、支給額の増額を発表	
2019/11/12		毎日新聞	私生活動画の報酬 月13万円 「生活保護並み」に批判 IT会社 20万円に増額	
2019/11/13		AbemaTV		
2019/11/13		テレビ朝日	羽鳥慎一モーニングショー	
2019/11/15	被験者募集終了	TBSテレビ	グッとラック!	
2019/11/16	被験者選定	毎日新聞	20万円私生活動画、1311人応募 9割は若者 年収200~400万円が半数	
2019/11/17		PRTimes	メール誤送信	
2019/11/17		AbemaTV		
2019/11/25	カメラ設置・撮影開始	毎日新聞	メディアの風景 「働かずに生きる」実験 AI時代、人間の尊厳は	
2019/11/26	撮影期間中	日刊SPA!	「月13万円自宅で1ヶ月間監視カメラ設置」という異例の社会実験。情報の買い手と売り手を直撃	
2019/11/29		Futurism	This company is paying people \$1,830 to film them constantly	
2019/12/02		フジテレビ	めざましテレビ	
2019/12/05		日本経済新聞	倫理の守護神「CEO」登場 信頼のルール競争始まる	
2019/12/05		日本経済新聞	あなたの私生活、20万円で購入	
2019/12/05		キャリアハック	20万円と引き換えに、あなたは「プライベート」を売りますか？	
2019/12/06		日本経済新聞	データの世紀 CEO=最高倫理責任者 信頼つかむ自律競争	
2019/12/25		撮影終了	TV Tokyo WBS	追跡！令和の3大ニュース 24時間 カメラが私生活を監視！？
2019/12/26			PRTimes	国際特許出願
2019/12/30			Mainichi News	「抵抗感なかった」「リスクより好奇心」「行儀良くなった」生活撮影 被験者が過ごした1ヶ月
2019/12/31		nglish Kyoto New	Could Exograph home filming project be shape of future to come?	
2020/01/07	実験まとめ期間	Nikkei Business	「自宅内の映像20万円で購入」反GAFAが生んだ実験	
2020/01/07		Tokyo FM Jwave	20万円私生活データすべてを売買するサービス「EXOGRAPH」は？	
2020/01/13		Japan Times	Exograph home-watching project challenges the value of privacy	

実験開始後最初の10日間は特に大きな反響はなかったが、11/7に投稿したPRTimesのリリースにより多くの人の目に留まったことでこのプロジェクトに大きな注目が集まった。このタイミングでSNSのTwitterで大きく拡散された意見としては「新卒の貧困ビジネス」といったワードであった。

その後金額設定を変更するなどの対応を行ったのち批判は落ち着いたものの、引き続き「最終応募者数」「カメラ設置・実験開始」「実験終了」の様子や本実験の意図がテレビや新聞のマスメディアに取り上げられた。

実験開始半月ほどは私生活動画の売買という本実験の手法への批判や好奇の論調がほとんどであったが、12月辺りからは未来社会の可能性やデータ経済の在り方を問うという本実験の目的を取り上げることが増えた。

考察

1. 貧困ビジネスという批判と実際の応募者について

当初本プロジェクトを発表した時には、この社会実験は社会的弱者を狙った貧困ビジネスとのいわれがあった。その背景には「私生活動画データというあまりにもセンシティブなデータ提供を進んで行いたい人は『常識的な感覚』では存在せずそれを行う人は何か困窮した理由がある」という前提の下の批判ではないかと思われる。

しかし実際の結果を見ると応募者の75%は有職者であり、残り18%は学生、7%が無職と、必ずしも無職の方が応募してきているわけではないことが分かる（図2）。また2017年の厚生労働省の調査結果によると日本国内で生活保護を受給している年齢は40代以上が全体のおよそ8割を占めており（図10）、今回の応募者の多くは20代~30代の若い世代であることから（図1）、生活保護受給者層の応募が増えるだろうという批判は外れているように思われる。また年収分布（図3）を見ると、20~30代半ばという若年層が多いため年収200~400万円の割合が多いことを考慮すると、必ずしも貧困層が生活に困窮し今回の実験に参加しているというわけではないことが分かる。



図 10 被保護人員の年齢と人数

また実際の応募動機に関しても、金銭的な報酬のみで応募した人は全体の2割ほどであり、残りの8割は社会的意義や面白さなどの動機で応募されている（図5）。なぜこのような批判と実際の応募者に差異が生じたかという点、30代以下のY世代・Z世代の価値観が、この度実験に応募しなかった40代以上の世代と大きく異なることが理由として挙げられる。

特にY世代の価値観として、金銭的な面以外にも社会への貢献性などを重視する世代であることが知られている。またデジタルネイティブとしてデータ収集と便益の関係について直感的に理解し受け入れている若い世代は、「無料で使える検索エンジンの対価として検索履歴を差し出すこと」「無料で使えるSNSの代わりに自分の趣味嗜好やチャット履歴を差し出すこと」の延長として「生活費をもらう代わりに私生活データを差し出す」ことをみなしているようである。無料で利用可能な一方でユーザーのデータを収集しマネタイズを行なっている他のサービスに比べ、むしろ公明正大に利用方法を明示し金銭的対価を提供する本実験を好ましいと感じる人もいた。（2020/1/7の日経ビジネスの記事より）

このように、今回の実験はプライバシーやデータ経済に対する価値観の世代間の差を明らかにしたのではないと思われる。

2. 現代の「時間売買の労働観」とExographのような「生活行動データ売買の労働観」はどちらがより人道的か

Exographには「臓器売買」のようなものであるとの批判を受けた。果たしてその批判は妥当だろうか。

このような批判の背景として、生活行動データというものに身体性を見出し、その売買を行っていることのアナロジーから臓器売買に結び付けられていると思われる。生活行動データが身体性を持ちうるかという点については十分考察ができていないためこの場では議論を行うことは避けるが、Exographのコンセプトの本質は単発の「データの売買」といったものではなく、自分のDoEを常時社会に提供するという「新しい労働」の在り方であり、ここでは「既存の労働」とそれとの比較を行ってみたい。

既存の労働観とはここでは世間一般に広がっている時給換算による労働のことを指す。それはマックス・ヴェーバーの「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」で言及しているベンジャミン・フランクリンの文章がこのことをうまく表現している。

時間は貨幣だということを忘れてはいけない。一日の労働で一〇シリング儲けられるのに、外出したり、室内で怠けていて半日を過ごすとするれば、娯楽や情性のためにはたとえ六ペンスしか支払っていないとしても、それを勘定に入れるだけではいけない。ほんとうは、そのほかに五シリングの貨幣を支払っているか、むしろ捨てているのだ

引用：マックス・ヴェーバー「プロテスタンティズムと資本主義の精神」

すなわち、我々の人生の時間は貨幣であり、自分の人生の時間を売ることによって対価として貨幣を得ており、ある時間を余暇に過ごした場合の費用は、余暇に費やした諸費用の他にも換金せずに過ごした時間分を失っているということである。このことを分かりやすく現代日本に当てはめると、例えば20歳~60歳の40年間に一日8時間労働を行った場合に、一生の寿命のうちのおよそ13年間分を生涯賃金2~3億円に換金している。

命の本質は臓器でも、血液でも、行動データでもなく、その人の歩みたい人生の時間であったとすると、現代の労働観は臓器売買よりも悪質で非人道的なものを売買している仕組みではないだろうか。

一方でExographが提示しているDoEの提供という新しい労働は、AIやロボットには出来ない人間にだけ可能な社会貢献であり、かつデータは共有することで役に立つが共有したからと言って何かを奪う性質のものではない。

現代の社会通念では既存の労働観は肯定され新しい労働は否定されているが、これから新しい技術の発展とそれに合わせた社会と人々の価値観が緩やかに移ろっていくなかで、既存の労働観が22世紀には臓器売買の誹りを受け、Exographのような労働観が常識となる日が来るのかもしれない。

3. Exographはベーシックインカム代替や社会保障制度の財源になりうるか

人々は生きていだけで社会にとって価値がある、という考え方は、アントニオ・ネグリとマイケル・ハートの共著「帝国」でも議論がされている。

労働が工場の壁の外に溢れ出すにつれて、労働日という虚構の尺度を維持し、生産の時間を再生産の時間から、あるいは労働時間を余暇の時間から切り離すことはますます困難になる。生政治的な生産の地勢上にはタイムカードは存在しない。… すなわち、万人に対する社会的賃金と保証収入の要求が明らかになる

引用：アントニオ・ネグリ、マイケル・ハート「帝国」

ここでいう「生産」と「再生産」の意味は、マルクス経済学的な意味であり、労働者が所有する労働力を資本家に販売することで得られる賃金を使って、自身の労働力の再生産に必要な生活手段を購入する。すなわち労働者は労働力を資本家へ販売した賃金から、自身の生活手段を購入し賃金を消費し、労働力を再生産する、といった意味である。現代社会では、労働とその労働のためのリフレッシュの時間や自己投資の時間、次の労働のための疲労回復の時間などといった区分が困難になっている。それであればいっそのこと、労働者が労働力を再生産するために必要な活動、本文の言葉を借りるのであれば

資本の生産に必要なあらゆる活動には同等の報酬が付与されてしかるべきという社会的賃金の要求は、社会的賃金がじっさいには保証収入であるというようなやり方で、人口の総体へとこの要求を拡大していくのである。

引用：アントニオ・ネグリ、マイケル・ハート「帝国」

ということである。

すなわち資本主義社会においても、労働者がそもそも自身や家族を養えなければ労働力の再生産は叶わないのだから、生きていだけでも社会的に価値があり、社会的賃金すなわちベーシックインカムを与えてもよいのではないか、という議論である。

一方でExographが提示している「生きていだけで価値がある」という主張の根拠はネグリらのいうベーシックインカムの根拠と異なる。Exographの主張の根拠は、人生の試行錯誤の結果は社会にとって有意義であり、DoEの収集を許容し社会貢献する者には相応の報酬が付与されてしかるべき、という考えに基づく。

つまりデータ提供者へのデータ生産という労働に対する対価としての報酬である。このようにExographが労働への報酬を根拠としている点が、労働の再生産に掛かる費用を根拠とした社会的賃金としてのネグリらのベーシックインカムとは基本的に異なるものである。

またExographの仕組みは上記の点から労働である以上、あくまで各人の自由意志に基づいて参加されるべきである。政府や行政が社会保障費や生活保護費の補填として市民に参加を強要することは、特定の労働を強いることであり、日本国憲法第22条第1項目「何人も、公共の福祉に反しない限り、居住、移転及び職業選択の自由を有する。」という職業選択の自由の点から違憲になりうるため、慎重な議論が必要である。そのため、社会保障制度の財源としては、あくまで自由意志でExograph

のような仕組みに参加しデータ提供者が得た報酬に対して、他の労働と同様に課税をすることのような方法で対応する方が良いだろう。

4. シンギュラリティ時代の労働・社会参画について

働かなくても生きていける時代がAI・ロボットの発展によって到来した時に、果たして私たちは幸せに暮らせるのだろうか。人間が行っていた労働が全て自動化され、何もしなくても暮らせる時代に、人々は何に生きる意味を見出せばよいのだろうか。

労働は日々の糧を得るためという目的以外に、社会参画や共同体への貢献といったやりがいや生きがいを得るための要素もある。マックス・ヴェーバーは「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」の中で、資本主義が大きく発展した一つの要素として、労働自体を宗教的な救いを得る・確信する条件としてプロテスタンティズムの精神について説明している。プロテスタントの信者は、自分の生活を豊かにするために働いていたというよりは、あくまでも職業労働は神の意思を実現するための手段として行っていたのである。

ところで、労働はそれ以上のものだ。いや端的に、何にもまして、神の定めたもうた生活の自己目的なのだ。「働こうとしないものは食べることもしてはならない」というパウロの命題は無条件に、また、誰にでもあてはまる、労働意欲がないことは恩恵の地位を喪失した徴候なのだ。

財産のある者も労働せずに食ってはならない。なぜなら、自分の必要を充たすために労働することはないとしても、貧者と同様に従わねばならぬ神の誠命が存在するからなのだ。

引用：マックス・ヴェーバー「プロテスタンティズムと資本主義の精神」

ここでは「自分が救われているか否か」という問いに対し、誰もが自分は選ばれているのだという「自己確信」に従い、絶えまない厳格で勤勉な職業労働を行っていた。

いま一つは、そうした自己確信を獲得するための最もすぐれた方法として、絶えまない職業労働をきびしく教えこむということだった。つまり、職業労働によって、むしろ職業労働によってのみ宗教上の疑惑は追放され、救われているとの確信が与えられる、というのだ。

引用：マックス・ヴェーバー「プロテスタンティズムと資本主義の精神」

このように、労働に日々の糧を得る以上のものを見出し、働くことによって自分は救われるべき存在であるという自己肯定感を得るといふ、労働の自己目的化が指摘されている。そしてこのような考えは、現代日本にも表面上の形を変えて広く普及しているように思われる。

昨今のブラック企業問題や過労死の問題が取り上げられているように、本来は人生の目的でないはずの労働のために心身の健康を捧げてしまう人は非常に多い。

事実、H30年に厚生労働省が発表した「過労死等防止対策白書」によると日本国内の自殺者総数のうち、勤務問題を原因・動機とする割合は10%弱、仕事を理由に自殺された方は2000人に登る。

日本では仮に20代の若者であったとしても生活保護費の受給などが国民の権利として制度上利用可能であり、事実、日本では働かなくても生きていけるのである。

それにも関わらず、命や人生を労働に捧げることが容易に起こり得ている日本の社会には、「働かない人は生きてはいけない」「働くことは社会参画の重要な活動であり、働かない人は認められない」といったプロテスタンティズムの倫理が色濃く残っているのではないだろうか。

すると、今後AI・ロボットの台頭により人間でなければならない仕事が減り、働かなくてもいい時代では現在の労働の倫理観を持つ人は、自己嫌悪に苛まれるのではないだろうか。

事実、今回の応募者の中にも以下のような動機で応募した人がいた。

Exographのようなシステムが収入を得るための選択肢の一つとして増えることは、自分にとって希望だと思ったからです。自分は会社で働くことが難しく、消去法で自営業を選びました。そんな自分を否定的に思うことが多いです。どんな人でもプライバシーの提供で収入を得られるようになったら、社会に参画できている実感が出て、自己を肯定できると思いました。

引用：Exograph応募フォームの応募動機の項目

単純作業だけでなく、作曲やイラスト制作などの創作活動ですらAIによる自動化が進む中で、人々のDoE提供、すなわちどんな人が、どのような生活をして、どんな人生を歩むのか、といった試行錯誤の結果については他の何者にも代替できない労働である。

働かなくても生きていける世界であっても、人間にしか出来ない労働を渴望するプロテスタンティズムの倫理を受け継ぐ人々に、Exographが救いとなる時代が来るのかもしれない。

5. 倫理面の妥当性について

まず民法第90条（公序良俗）には「公の秩序又は善良の風俗に反する事項を目的とする法律行為は、無効とする。」という条文がある。これはすなわち社会的な妥当性に欠けるような法律行為や契約は、仮にその当時合意があったとしても無効となり、なかったことにできるものである。具体的には奴隷契約、愛人契約、高利貸しといったものがこれに該当する。公序良俗に反しているかどうかの判断はその都度の判例の積み重ねとなるため、今回の私生活動画の売買がこれに該当するかは議論を必要とするが、もし公序良俗に反すると判断される場合は私生活動画の売買という契約や仕組みが成り立たなくなる。

また民法だけでなく、憲法的な解釈も以下のような理由により考慮に入れなければならない。

また憲法学の世界では一般に、法律の制定や解釈を通じて、憲法原理は間接的に民間企業（私人）の行為にも適用されると考えられている（間接適用説）

引用：山本龍彦「AIと憲法」

その結果、例えば今回の実験のように常時監視下で収集される個人情報に身体性を見出される場合は日本国憲法第18条「何人も、いかなる奴隷的拘束も受けない。又、犯罪に因る処罰の場合を除いては、その意に反する苦役に服させられない。」という項目に反するという解釈もあり得る。

6. 経済的価値について

複数企業へのヒアリングを実施したが、「データの価値」についてはデータ提供者側の属性・人数に加えて、買い手側の規模・数・性質により大きく異なるため、一概にいくらかと算出することは困難であった。

今回の実験で想定している商品開発・市場調査の目的での利用方法に限定した場合を想定すると、以下のような計算が可能である。

2019年の社団法人日本マーケティングリサーチ協会が作成した「第44回経営業務実態調査」の資料によると、日本国内のマーケティングリサーチの市場規模は2190億円であり、その中でパネル調査、AD-HOC、その他の手法の市場規模はそれぞれ700億円、1350億円、130億円となっている。今回の実験で提唱しているような「私生活の状況を直接見て商品開発・市場調査へ役立てる」手法はAD-HOCの中でエスノグラフィーと呼ばれており、AD-HOCの売上の0.2%を占めるにとどまり、市場規模はおよそ2.6億円と計算できる。もし今回の私生活動画プラットフォームがこのエスノグラフィー市場全てのシェアを取れたとしても、仮に1万人規模で実施した場合に一人当たり年間2万円ほどの売上となる。実際は占めるシェアはもっと少ないだけでなく、サービス提供に関わるコストが非常に大きいため、さらにユーザーへの支給額は少なくなると考えられる。

一方で、私生活動画のデータはエスノグラフィー市場以外の調査手法へも展開が可能であり、仮にマーケティングリサーチ全体の10%のシェアを占める手法とすることができれば、市場規模は219億円となり、1万人規模で実施した場合に一人当たり年間219万円、月々およそ20万円の売上が可能となる。

このように、一人当たりの私生活動画の価値、すなわち売上は活用する市場や方法、ビジネスモデルに依存する。

実際は24時間1ヶ月の動画の容量は同じであっても、被験者の属性や家にいる時間によって買い手にとっての価値は異なるため、それを踏まえた売買市場として機能させる必要があると考えられる。

結論

「データを売る、その代わりに金銭的対価を与える」と宣言したプライバシーデータ収集のプロジェクトは、日本国内においてはプライバシーデータ収集が奴隷的拘束に該当するものか、またこの行為自体が公序良俗に反するものかという点で、憲法・民法上の議論を必要とするものであった。またこの取り組み自体が弱者を搾取する構図の貧困ビジネスではないかという批判も得た。一方で応募者の属性を見ると、生活に困窮し他に選択肢がないため応募した社会的弱者というよりは、社会貢献やデータ経済の可能性に期待しているミレニウム世代からの応募が多く、年齢層における考え方の違いを浮き彫りにした。

そしてデータの価値に関しては、対象とするマーケットやビジネスモデルの前提により大きく変わるため一概には算定できなかつたが、おおよそ1ユーザー当たり月々数千円~数万円の売上が立つと簡易的に推定できた。

終わりに

本実験の実施に際し協力頂いた方や応募・応援頂いた方に感謝します。

また一部の応募者のメールアドレスを誤送信してしまいご迷惑をお掛けした方や不快な気持ちにさせてしまった方に改めてお詫び申し上げます。

この度の実験は実験を行うこと自体に対する批判や反応を見ることに主眼が置かれているため、詳細なビジネスの実現可能性や技術的課題、また被験者から収集された私生活動画の詳細な検討は行いませんでした。

それらの検討は興味を持たれる方に譲ろうと思います。

人の生み出す技術が社会を変え、新しい社会が人の価値観を変えていく中で、今回提唱した人々の生き様データDoEの売買という労働観が根付くのかどうか行く末を見守ろうと思います。

補足資料

補足資料 1

公開していた実験参加に関する注意事項やQ&A

1. Q. Exographって何？

A. 都内23区の30歳前後の人に支給される月々の生活保護費用132,930円を人々に提供する代わりに、その私生活の状況を動画データで収集するプロジェクトです。
そのデータをマスク・匿名化した消費者の行動データとして企業に販売・運用し、生活保護費用を賄えるようなデータの活用の仕方を模索する。
またその過程で有識者や一般の方々に本取り組みに関する意見などを伺い、これからの人々の生活とデータとの関わり方、そして資本主義のあり方について提唱する実験です。

2. 参加すると具体的に何をします？

2019/11/25-2019/12/25の間、実験参加者の部屋にカメラが設置され、部屋の様子が撮影されます。参加者は特に何かをするわけでもなく、普段と変わらない生活が可能です。

3. どういうデータを収集するの？

動画と音声のデータです。実験期間中は昼夜問わず撮影を行います。
浴室はハードウェアの問題でカメラを設置しませんが、自室での行動以外に、トイレ、洗面台全てにカメラを設置するため、センシティブな行為や姿も含めて動画によりデータを収集します。

4. どこで収集するの？

参加者の実際の家にカメラを設置します。モニタールームなどのような場所ではなく、参加者の普段通りの部屋で普段通りに生活してもらうだけです。

5. 収集された動画データは誰が見るの？

Exographプロジェクトの関係者です。同意を得ていないものに関しては関係者以外への公開はされません。また、プライバシー保護のため、撮影したデータを二次利用するには匿名化の処理がされ、参加者個人を特定できないデータとなります。匿名化後のデータは、関係企業や有識者の方へのヒアリングなどに利用されます。同意を得た一部動画データについては、本人に確認の上公開させて頂くこともあります。

6. 実験の期間は？

2019/11/25-2019/12/25の間です。期間の前後数日に実験機器を設置、撤去を行う日を設けます。

7. 実験の為の機器は何を設置するの？

カメラとそのデータを扱うPCが設置される予定です。設置する場所は部屋の壁や天井などに両面テープでウェブカメラを固定し、日常生活の邪魔にはならないように配慮します。

8. 海外に住んでるんだけど、参加できる？

今回の実験では、対象者は日本在住の方のみになります。

9. 同居人がいるんだけど、参加できる？

同居人の許可があれば、参加可能です。ですが、万が一トラブルがあった場合には本プロジェクト運営では責任を負えませんので、十分に話し合った上でプロジェクトにご参加ください。

同居人もデータ提供する場合は、人数分の費用をお支払いします。

10. 参加・応募の方法は？

[こちらのフォーム](#)から応募できます。

11. 家にカメラとPCがないんだけど

実験に必要な機器はこちらで用意して、それを参加者の部屋に設置します。

12. 実験中に少し家に居ない期間があるんだけど

原則として、実験期間中に3日以上連続で居ない期間がある場合、今回は参加できません。

13. 実験中に、友達が来たときのデータはどうなるの？

参加者の責任のもと、友人への承諾を取っておく様をお願いします。

14. 実験期間中に撮影されたデータでどうしても消してほしい時間があるんだけど

基本的に対応可能ですが、報酬が減額されることがあります。

15. 二次選考での面接はどういう方法で行われるの？

基本的にはビデオ通話を利用して、オンラインで行います。

ですので、東京から遠方の方でも応募が可能です。

16. 未成年だけど参加できる？

今回の実験は、実験期間までに成年されている方を対象としています。未成年の方の場合は保護者の方の同意が必要となります。

17. 部屋でペットを飼ってるけど、参加できる？

ペットの種類によっては、実験が安全に行えない可能性があるため、参加できません。実験が行えるかどうかは応募後にこちらで判断いたします。

18. 日中、あんまり家にいないけど、参加できる？
基本的に家では睡眠だけ、という方でも参加できます。
19. 既に生活保護を受けているんだけど、参加できる？
参加できます。
ですが今回参加することで得られる支給額を行政に収入として申請する必要があります。
参加に関しましては、その点を踏まえてご判断いただければと思います。
20. もう今後働かなくて良いくらいお金もってるんだけど、参加できる？
参加できます。
21. 実験中、こちらの都合で、データを収集できないようにカメラやPCの電源をオフにしたり、カメラのレンズを隠したりしても良い？
意図的にデータを収集できないような行動をされた場合、契約違反となり、報酬が支払われなかったり、減額される可能性があります。自然災害等の不可抗力によって実験が阻害された場合であれば、報酬は通常通り支払われます。
22. 実験を途中でやめたくなくなったときはどうなるの？
体調や精神状態を加味し、途中で棄権していただくことも可能です。報酬は収集されたデータに応じて支払われます。
23. 支給金額が変更になったけど、変更前に応募した人の支給額はどうなるの？
支給金額が変更になりましたが、応募のタイミングに関わらず被験者として選ばれた方への支給額は等しく20万円とさせていただきます。
24. 実験の様子をYoutubeやTwitterなどで配信、公開しても良い？
原則的に参加者が実験内容の配信や公開をすることはできません。相談により可能な場合があります。
25. 事業として収益性はあるの？
非常に難しいと考えていますが、今回の実験を通して可能性を探っていきます。

補足資料 2

14項目の被験者の属性情報のアンケート項目

1. メールアドレス
2. 名前
3. 性別
4. 年齢
5. 住所
6. 部屋の間取り
7. 同居人の数
8. 職種
9. 年収
10. 趣味
11. 興味があること
12. なぜこの実験に応募しようと思ったか
13. もしExographのようなシステムが存在して、衣食住が完全に保証されている世界であれば、あなたは何をしますか
14. 最低いくらであればこの実験に参加しますか

画像データ提供に関する同意書

私は、株式会社Plasma（以下、「会社」といいます。）が実施する、社会実験Exographの研究（以下、「本研究」といいます。）に関し、以下の点について確認したうえで画像データを提供することに同意します。

1. 私は、2019年11月25日から、2019年12月25日まで（以下、「研究実施期間」といいます。）の間、会社が提供する録音録画機器（以下、「ビデオカメラ」といいます。）を、会社が指定する私の居住スペースに設置し、私の行動及び言動等をビデオカメラで24時間録音録画し、録音録画した全てのデータ（以下、「録音録画データ」といいます。）を会社に譲渡します。
2. 私は、研究実施期間中、会社からインタビュー及びアンケートの実施を求められた場合は、これに応じることを約束します。また、インタビュー内容をICレコーダー等で録音することを承諾します。
3. 私は、録音録画データを会社に譲渡することと引き替えに、会社から20万円（税別）を受領します。ただし、研究実施期間中に、録音録画を中止したり、録音録画データの一部を譲渡しない場合には、提出された録音録画データの部分の録音録画時間に応じて減額されることを承諾します。
4. 私は、録音録画を中止する場合、又は3日間以上私の居住スペースに戻らない場合は、事前に会社に連絡することを約束します。また、研究実施期間中、会社が設置したビデオカメラに触れないことを約束します。
5. 私は、録音録画データの譲渡に先立ち、ビデオカメラで録音録画された全ての情報から、私以外の第三者の個人情報及びプライバシー情報が含まれる情報（第三者の同意がある場合は除きます。）をマスキングしたうえで、会社に録音録画データの譲渡を行います（以下、会社に提供された録音録画データを「提供データ」といいます。）。※ なお、マスキングにあたり、手助けが必要な場合には会社にお問い合わせください。
6. 私は、会社が提供データを分析し、消費者行動データとして使用することを承

諾します。

7. 私は、提供データについて、会社が、画像については顔及び体表面をマスキングし、音声についてはボイスチェンジャーを使用して個人を直ちには識別できないように匿名化したうえで、第三者の閲覧に供することを承諾します（以下、マスキング等を行った後の画像を「加工後データ」といいます。）。

8. 私は、加工後データについて、私が許諾した範囲において、SNSを含むインターネット上で閲覧可能な状態にアップロードすることを承諾します。

9. 私は、本研究の研究成果の発表等のため、インタビュー及びアンケートの結果並びに提供データ及び加工後データから明らかになる情報を利用することを承諾します（発表にあたっては、年齢、性別及び、居住する都道府県のみで匿名化し、氏名、住所及び、勤務先等の個人情報を第三者に開示することはありません。）。

10. 私は、本研究の結果として生じた知的財産権等の権利又は経済的利益について、私に帰属しないことを確認し、承諾します。

11. 提供データの分析及び加工作業は全て会社において行われるため、加工作業のために第三者に対して同データが提供されないことについて、私は説明を受けて承諾しました。

12. インタビュー及びアンケートの結果並びに提供データ及び加工後データは、情報漏れの無い対策を十分に施したコンピューター等に保存するか、又は会社内の鍵がかかる保管庫内において厳重に管理したうえで、保管庫の鍵は会社の役員及び会社と守秘義務契約を締結した従業員のみが管理することについて、私は説明を受けて承諾しました。

13. インタビュー及びアンケートの結果並びに提供データ及び加工後データは、会社において3年間保管した後、全て廃棄されることについて、私は説明を受けて承諾しました。

私は、本研究について、以上の事項について説明を受けました。

年 月 日

(住所)

(氏名)

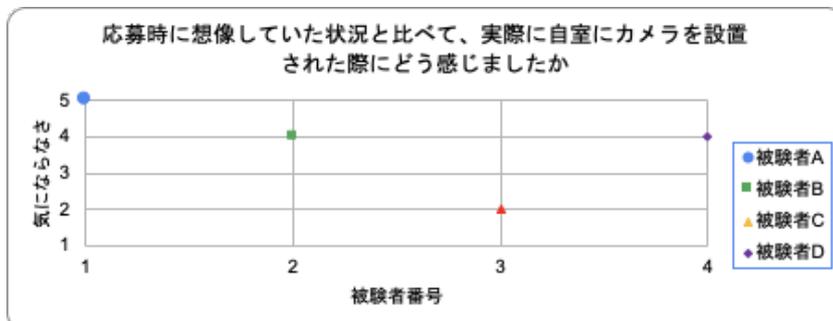
⑩

補足資料4

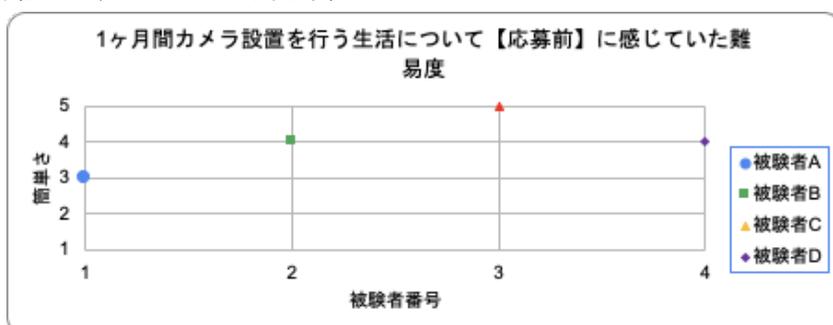
被験者への5回のアンケートの内容・結果

初回アンケート設問

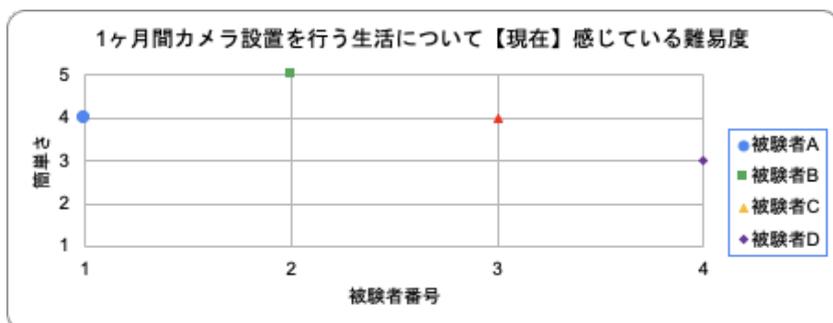
1. 応募時に想像していた状況と比べて、実際に自室にカメラを設置された際にどう感じましたか（1：想像よりも非常に気になる、5：想像よりも全く気にならない）



2. 1ヶ月間カメラ設置を行う生活について【応募前】に感じていた難易度（1：とても難しい、5：とても簡単）

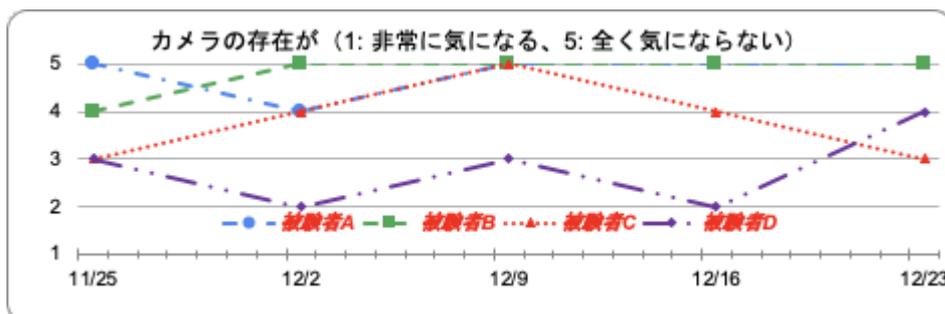


3. 1ヶ月間カメラ設置を行う生活について【現在】感じている難易度（1：とても難しい、5：とても簡単）

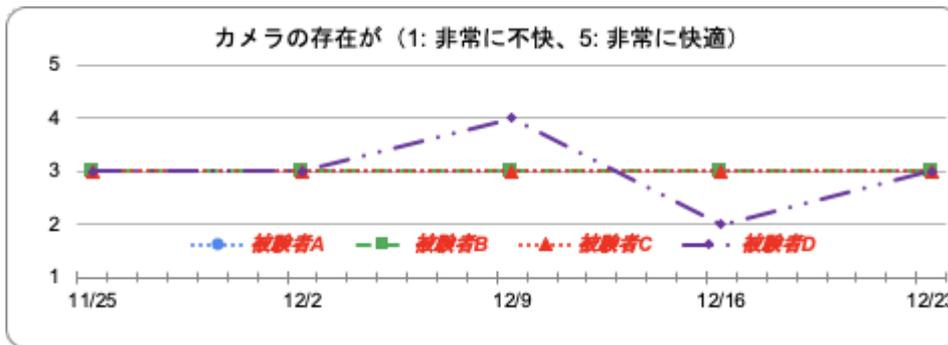


通常アンケート

1. カメラの存在が（1：非常に気になる、5：全く気にならない）



2. カメラの存在が（1：非常に不快、5：非常に快適）



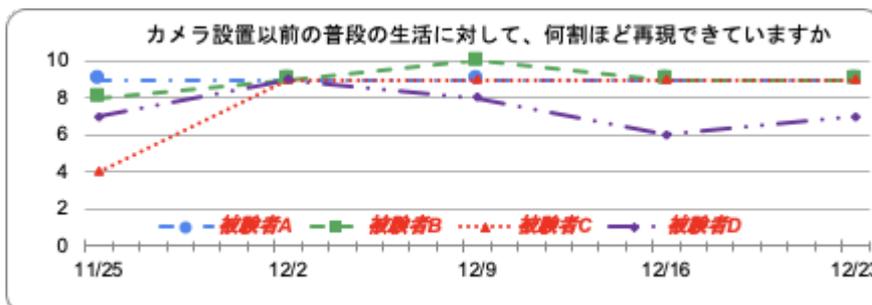
3. あとどれくらいの期間、この生活を続けられそうですか？

- 1日間
- 3日間
- 1週間
- 2週間
- 3週間
- 1ヶ月
- 3ヶ月
- 6ヶ月
- 1年以上
- その他

あとどれくらいの期間、この生活を続けられそうですか？

被験者	11/25	12/2	12/9	12/16	12/23
A	1年以上	1年以上	1年以上	1年以上	1年以上
B	3ヶ月	1ヶ月	2週間	2週間	2週間
C	1年以上	1年以上	1年以上	1年以上	1年以上
D	2週間	2週間	1週間	1週間	3日間

4. カメラ設置以前の普段の生活に対して、何割ほど再現できていますか（1：普段の暮らしと大きく異なる、10：普段通り暮らしている）



5. 普段通り再現出来ていない部分はどこですか

- 行事・身だしなみ
- 趣味などの活動
- 万が一公にすることで危険にさらされうる情報の管理（パスワードや第三者の情報）
- 社会的に行為自体認められておらず、それを公にすることをタブーとされている行為（動物虐待など）
- 社会的に行為自体は認められているが、それを公にすることをタブーとされている行為（電話での愚痴、破壊的行為、自慰、自堕落な生活など）

f. 普段通り暮らせている

g. その他

普段通り再現出来ない部分はどこですか？					
被験者	11/25	12/2	12/9	12/16	12/23
A	普段通り暮らせている	普段通り暮らせている	普段通り暮らせている	普段通り暮らせている	普段通り暮らせている
B	行儀・身だしなみ、万が一公にすることで危険にさらされる情報の管理（パスワードや第三者の情報）、社会的に行為自体は認められているが、それを公にすることをタブーとされている行為（電話での愚痴、破壊的行為、自慰、自堕落な生活など）	万が一公にすることで危険にさらされる情報の管理（パスワードや第三者の情報）	普段通り暮らせている	普段通り暮らせている	普段通り暮らせている
C	万が一公にすることで危険にさらされる情報の管理（パスワードや第三者の情報）、社会的に行為自体は認められているが、それを公にすることをタブーとされている行為（電話での愚痴、破壊的行為、自慰、自堕落な生活など）	万が一公にすることで危険にさらされる情報の管理（パスワードや第三者の情報）	普段通り暮らせている	社会的に行為自体は認められているが、それを公にすることをタブーとされている行為（電話での愚痴、破壊的行為、自慰、自堕落な生活など）	万が一公にすることで危険にさらされる情報の管理（パスワードや第三者の情報）
D	ちょっとカメラを意識した行動になっているかも？しれません	行儀・身だしなみ	普段通り暮らせている	行儀・身だしなみ、社会的に行為自体は認められているが、それを公にすることをタブーとされている行為（電話での愚痴、破壊的行為、自慰、自堕落な生活など）	行儀・身だしなみ

6. 本実験を開始して、ポジティブな面で気付いたことや心境の変化などはありますか？（記述式）

本実験を開始して、ポジティブな面で気付いたことや心境の変化などはありますか？					
被験者	11/25	12/2	12/9	12/16	12/23
A	試験前に想像していたよりも、はるかにカメラが気にならないこと。良い意味で若干家での仕事に張り合いが出たこと。	特に良い影響もないくらいカメラが気になります。	特にありません。	特にありません。	カメラの存在があるので、これまであまり深く考えてこなかった情報やプライバシーとその法律や倫理観について興味を持ちました。
B	自宅のだらしなさが少し改善された。	カメラがある状況に慣れてきたため、変化を感じられなくなってきた。	普段通りに過ごしているので変化なし	第三者からの目をより一層気にしなくなった	特になくなりました。
C	意外と独り言が多いな、と気がついたこと。良くも悪くも。	部屋をなるべく綺麗に保とうとするようになった	動画などをみて、笑ってストレス解消しているなという印象	特になし	当初の想定通り、あまりカメラの存在は気にならなかった
D	独り言（弁解するような）が多くなった気がします笑	カメラの存在を意識してはいるんですが「よい人間であろう（できるだけ）」というポジティブに働いている気がします	乱れた生活を整えようという気持ち	いい意味での開き直り	なにかしらカメラを意識しながら生活をしていることの自覚と受容

7. 本実験を開始して、ネガティブな面で気付いたことや心境の変化などはありますか？（記述式）

本実験を開始して、ネガティブな面で気付いたことや心境の変化などはありますか？					
被験者	11/25	12/2	12/9	12/16	12/23
A	排泄時や郵便物などを部屋の中に放置しておくことに一瞬ためらいを感じました。ただし、1日もたないうちにすぐに慣れました。	特に悪い影響もありません。	特にありません。	強いて言うなら「カメラがしっかり設置されているか」「ちゃんと録画できているか」、生活の中でときどきふと気にしなければならぬくらいです。	特にありません。もしこの実験に参加したことで何らかのリスクを被ったら？と考えたこともありますが、起きるかどうかわかではない危険を心配するよりも、新たな試みに参加できる好奇心の方が勝ります。
B	現段階では特になし	カメラがある状況に慣れてきたため、変化を感じられなくなってきた。	人を呼ぶことは躊躇われる	特になし	特になくなりました。
C	自宅に友人などを呼びづらくなったこと。	自宅に人を呼べないのが不便	動画などをみて、独り言を思ったより言っているなという印象	ハードディスク廃業者による転売問題がニュースになり、流出リスクへの対策が気になり始めた。	情報漏洩のリスクについて少し考えるようになった(ある意味ポジティブなことかも)
D	初日はちょっと緊張して眠れませんでした	いい意味で開き直りというか、「あーこんな自堕落振られちゃってるけど...まあいっか」みたいな感じでした。	カメラの存在が気になってなかなか寝付けなかったことがあった	自堕落な面を記録してしまっていることへの自己嫌悪、分かっているけど止められなかったり、開き直ってしまったことで無気力になってしまいました	カメラを意識しながらの生活態度への疑念

8. 「感情面」について、現在の率直な気持ちや変化を教えてください（記述式）

「感情面」について、現在の率直な気持ちや変化を教えてください。					
被験者	11/25	12/2	12/9	12/16	
A	予想以上にリラックスして試験に参加でき、試験前に感じていた精神的苦痛による中断などの不安が払拭されて、むしろ晴れ晴れとした気分です。今後自分の気持ちがどう変化していくのか楽しみでもあります。	試験開始から特に変化はなく、カメラがあることによる羞恥心などはありません。	感情面について、実験前と特に変化はありません。	実験前と変わらず、普段通りです。	実験前と大きな変化はありませんが、1ヶ月は本当にあっという間に感じました。
B	現段階では特に変化なし	メディア対応をしていて、思いの外、好奇の目で見られるのだなあと感じた。(そのことで嫌な気持ちになったわけではない)	予想以上に気にならなくなり、少し驚きがある	カメラのない時と大して変わらない	嫌悪などのストレスは全くなく、結構カメラの存在を忘れるようになりました。
C	特に変化なし。	特になし	思っていたとおり、あまりカメラが気にならないです	前述のニュースにより、マスク前前のデータが流出するリスクを、少しだけ懸念するようになった気がする。	特になし
D	間取り的にお風呂がやっぱり気になる...	恥ずかしさは伴いますが「まあ、仕方ないな」みたいな気持ちで過ごしています。オフラインなのが程よい安心感につながっているのかもしれない。	ちょっと「もういいかな」という気持ち(嫌気の一步手前)が芽生えてきた	「ちゃんとできていない」ことへの聞き直り→改善できていないことへの自己嫌悪→無気力になってしまうというループ	演じているのではないかという気持ち→でもそれはそれで当たり前だよなあって気持ち

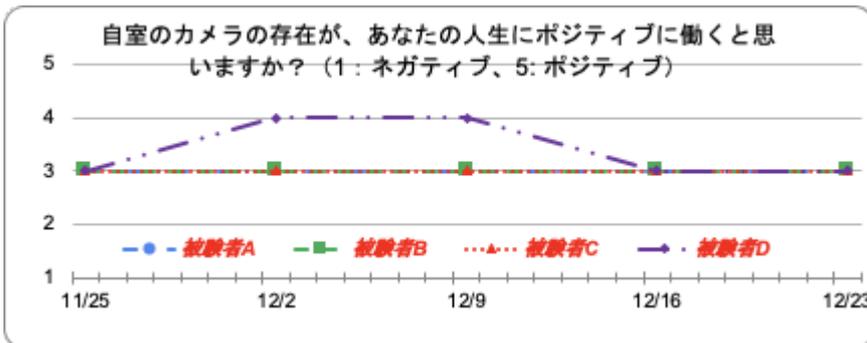
9. 「体調面」について、現在の率直な気持ちや変化を教えてください (記述式)

「体調面」について、現在の率直な気持ちや変化を教えてください。					
被験者	11/25	12/2	12/9	12/16	
A	体調面は試験前と変化がなく、万全な状態と言えます。	体調は試験前と変わらず良好です。	体調面について、実験前と特に変化はありません。	実験前と変わらず、普段通りです。	実験前と同じく通常通りの体調です。
B	現段階では特に変化なし	特に変化なし	普段通りに過ごしているので変化なし	変化なし	特に変化なし。
C	特に変化なし。	風邪を引いた気がする(実験の影響とは特に思っていない)	冬なので風邪をひいたが、やっと治ってきた。カメラの影響は特になし。	特になし	特になし
D	まだそんなに気づきはありません	あまり変わらないと思います。	もともとの便秘がちな体質はあるのですが、カメラを気にしてリラックスできない部分はあるかもしれません。	多分普通です...	特に変わらず

10. 「生活面」について、現在の率直な気持ちや変化を教えてください (記述式)

「生活面」について、現在の率直な気持ちや変化を教えてください。					
被験者	11/25	12/2	12/9	12/16	
A	初日にして仕事や布団に入った後など、カメラを完全に忘れていたこともあり、生活に支障は全くありません。	生活面は試験前通り変わらず過ごしています。	生活面について、実験前と特に変化はありません。	生活についても、実験前と変化はありません。	実験前と同じく、通常通り生活しています。
B	自宅でのだらしなさが少し改善できている	予想以上に変化のない生活を送れている。	普段通りに過ごしているので変化なし	カメラの存在は生活に干渉してない	カメラの存在を忘れるようにまでなるのは少し驚きました。
C	カメラ設置時に部屋を掃除したので、なるべく綺麗な状態を保とうとするようになった	部屋が綺麗に保たれていて、よい	部屋が少しずつ散らかってきた。カメラがますます気にならなくなってきたせいかもしれない。	特になし	特になし
D	生活面はあまり変わらないと思います	ちょっと恥ずかしさがあります。	あまり変わらないです。	撮られているから「ちゃんとしなきゃ」という意識が働いて、100%素で生活はできていないように思い始めました。	長い目で見ればさほど変わらないかむしろ変わらない感じ

11. 自室のカメラの存在が、あなたの人生にポジティブに働くと思いますか？ (1：ネガティブに働く、5：ポジティブに働く)



12. 上記質問について、それは何故ですか？ (記述式)

上記質問（自宅のカメラの存在が、あなたの人生にポジティブに働くと感じますか？）について、それは何故ですか？					
被験者	11/25	12/2	12/9	12/16	12/23
A	良くも悪くも慣れてしまえば何の影響も受けにくいから。		良くも悪くもカメラが気にならないので、影響は特になさそうです。	カメラがあってもなくても、普段通りの生活は変わらないからです。	カメラの前で普段通りの行動をしないことに、特別メリットもないからです。
B	自宅でのだらしなさが少し改善する		ほとんど気にならなくなり、普段通りであるから。	生活に干渉してないから	生活に干渉してないから。
C	現時点だとまだ判断できない。		メリットもデメリットもあるので。	防犯対策や孤独死対策などの効果がある一方で、流出リスクもあるのかな、という印象です。	現時点では、あってもなくても変化がありません。
D	行動分析をして、学習や習慣づけなどにFBできるなど使い次第では有効かな、とは思いますが		道徳的に「よき人間であろう」と思うので。	実験月やシーズンなどによるのではないかなと思うので。	カメラのサイズの気にならないほうがいいかと思ったんですが、ないならいいので逆に振り切れてしまう気もして、目的によるのかな、と思いました。

13. そのほかに何か考えていたりメモとして残したいことがあれば教えてください（記述式）

その他何か考えていたりメモとして残したいことがあれば教えてください。					
被験者	11/25	12/2	12/9	12/16	12/23
A	良くも悪くも慣れてしまえば何の影響も受けにくいから。	部屋のカメラで撮られていることは、SNSに映像や画像を載せたりする感覚とあまり変わらないと思った。それは今回の実験の場合はオフラインで撮っているし、自分で撮った映像を確認できるし、その上でデータを消さないという選択技もあるから、SNSなどに画像や映像を掲載するプロセスと大差ない気がする。その上で、オンラインで常時監視されている状態だとしたら、自分で相手に渡すデータの確認・選択ができないという点で、報酬があっても参加はしたくないと感じた。	自分は生活リズムがバラバラだったり、食生活も整ってはいなかったり、かなり怠惰な生活を送っている自覚はあるものの、それをオープンにすることはあまり抵抗がないです。普段から自分の持つ悩みやセクシャリティなどのセンシティブなこと、わりと誰にでもオープンにすることに抵抗がないので、同じくプライベートな家で生活を晒すことにもあまり抵抗がないのかもしれない。		すでに議論されていることだとは思いますが、生きているだけでお金を稼げることは素晴らしい一方で、被験者のスペックやデータの情報量・質によって報酬が左右されれば、一人一人の生きる価値に差があるという捉え方も発生してしまうと思いました。現代社会が進むべき方向、どんな人でもその存在を尊重される社会とは、却って逆行してしまう危険もあることに気づきました。
B	自宅でのだらしなさが少し改善する	この調子で世間の注目を集めていって、何か社会に変化が起きないかなあと期待しています。	これ程生活に影響を与えないのであれば、大規模な実験も可能かと思えます。		
C	現時点だとまだ判断できない。		開始以来、PC内のチェックを特にしないけど、たまにはしたほうがいいのかしら……。		カメラによって、利用者にとってのメリットが生まれればよいのだが、なにかあるだろうか。冷蔵庫の中身や料理工程、日用品の減り具合を識別して、買い物リスト作ってくれるとか。見守りサービスとか。動きなどを解析して、通院を勧められるとか。
D	行動分析をして、学習や習慣づけなどにFBできるなど使い次第では有効かな、とは思いますが				カメラでの生活を撮影することよりも、その後の取材のほう（人の好奇心にさらされること）がこわかったです。